

古高取通信

令和8年1月

私たちは、活動の四本柱を基に、まちづくりに貢献することを目指します。

1. 活動の拠点を創る
2. 古高取の知識を深める
3. 古高取の魅力を伝える
4. 次世代へつなげる

古高取を伝える会会報



東蓮寺藩主館跡

目次

お知らせ	・	・	・	・	・	・	・	・	・	10
なんでも掲示板	・	・	・	・	・	・	・	・	・	8
焼物部会	・	・	・	・	・	・	・	・	・	3
学習部会	・	・	・	・	・	・	・	・	・	2

鉄は国家なり

2年程前、広島から中国山脈を越えて石見銀山に行った。その際、出雲の山中にある菅谷の「たたら場」に立ち寄った。

「たたら場」とは、土で作った炉の中で木炭を燃やし、砂鉄を溶かして鉄を作る製鉄施設のことである。この製鉄の技法を伝えたのは朝鮮半島から古代における最高の技術を持った渡来人達である。

付け加えるが、当時すでに開墾していた縄文・弥生人による水田稲作の金属による農具のスキ・クワ等はそれまでの木製農具と違い、大いに生産量を増やした。

たたら1回(三昼夜)で得られる金塊を2トンとすれば、砂鉄は24トン、木炭は28トンにもおよび、製鉄の為の薪は100トン近く伐採せねばならなかった。一山を裸にする程の森林消費量で、まさに「樹木が鉄を作る」と言われた。しかしモンsoon地帯の日本は伐採した後すぐに植林をすると30年余りで樹勢は戻るといふ。一方、技術を伝えた朝鮮は、乾燥地帯であり、気候や地質等の理由で各所に禿山が増えた。その点において日本は幸いであった。

その後、各所で興った地域領主はこの鉄を武器とし、又農具として大量に所有することで、大きな支配力を持った。つまり古墳時代の始まりである。

鷹取宗恵

令和7年度の高取焼基礎研修講座は、「茶の湯と戦国武将」という標題で三回実施した。

戦国大名としての織田信長・明智光秀・豊臣秀吉の三名に代表させてまとめることとし、月一回、日曜日の午前十時三十分~十二時を充て、会場は直方市中央公民館で実施した。

【第一回】

〈2025年9月21日(日)〉

テーマ…織田信長と茶の湯政道

【第二回】

〈2025年10月19日(日)〉

テーマ…明智光秀の本性

【第三回】

〈2025年11月16日(日)〉

テーマ…豊臣秀吉と利休流侘び茶

第一回”織田信長と茶の湯政道“

は資料四枚つけて説明を行なった。信長は、上洛の翌年(永禄12年)初めて堺の茶の湯文化に接触し、紹鷗門下の堺の茶匠、今井宗久・津田宗及、千宗易などの納屋衆によって茶の湯を学び、名物茶器を集め始めた。これを使って配下の武将達を支配し、彼らに忠勤をばげませた。戦功の著しかった者に、名物茶器を惜しみなく賞与とした。信長は、政道的一端として、茶

の湯の持つ平和秩序を重んじた。「天下布武」の印章を使用し、天下統一の政治は、武断だけではおこなないがたいことを、よく認識していた。その中で、三大名物茶入と、天目茶碗中心に話しを進めた。

天正十年の六月一日は近衛前久以下40人の堂上公家、僧侶、地下人達が信長の宿所本能寺で会っている。深夜まで日海と碁を打っていた。その後、日海が本能寺を退出した。信長は深更におよんで就眠したことだけは、確かであろう。翌朝の早暁、突如として明智光秀の率いる一万余の大軍によって、光秀謀叛と知ると、信長は自ら弓矢を取って防戦したが、衆寡敵せず、「いたし方なし」と、つぶやいて居間に退き、自刃して果てた。

茶の湯の為の三十八種の名物茶器も、一朝にして灰燼に帰した。七年後の天正十七年に『山上宗二記』に名物茶器群が上げられている。

信長は、西国出馬に際し、京都の本能寺で名物茶器を利用して、茶会を盛大に催し、数寄大名として面目を天下に誇示したかったのである。明智の反逆のために、それを果たし得なかったのではあるまいか。信長の油断と不覚があった。

第二回”明智光秀の本性“

には資料四枚つけて説明を実施した。

明智光秀は、むしろ、信長から秀吉へと政権さし渡しの役割を果たした人物として、再認識すべきであろう。

光秀は、信長の家臣としては一流の武将で、文武両道に達する教養人で、城攻め・剣技・槍術・鉄砲の射法のほか和歌・連歌・茶の湯の嗜みが深かった。性格は、きわめて沈着で、冷静な、理性の勝つた、マジメ人間であった。美濃の土豪明智氏の一族で武士の子として、戦国乱世の武人にありがちな、粗暴さ、荒々しさ、残忍性がなく、現代的にいう、高度の教養を身につけたインテリ軍人であった。信長と同様な合理主義者ではなく保守的な人物であったと考えられる。 ”天下を盗りたい“と考えた事もなく、野心家であったが、精々、一城のあるじにでもなれば、それで満足するタイプの人物だったと思われる。

越前の朝倉家に仕えていた若年時代も秀でていたが、亡命してきた前將軍足利義輝の弟義昭の境遇に同情し、義昭の近臣として付き添ってきた細川藤孝(幽斎)の忠誠ぶりに共鳴し、その勧めによって、藤孝の組下の足利家臣となり

義昭上洛と將軍就任に尽力した。

光秀は岐阜に行き、信長に仕えたのも、足利義昭を十五代將軍にするために、藤孝と同様、光秀にとつて、朝倉家に仕えたのも、一つの方便で、信長に臣事したのも、義昭を奉じて上洛するための方便であった。上洛を遂げてからの光秀は、むしろ、革新政治家である信長に、足利幕府としてよりも信長の部将として、大いに登用された。義昭と信長が不仲となり、室町幕府の没落と滅亡を見越した光秀は、細川藤孝よりも二年ほど早く、織田家臣一筋へと、巧みに馬を乗りかえた。

第三回”豊臣秀吉と利休流侘び茶“

では資料四枚つけて実演した。

秀吉が初めて茶事を見おぼえたのは、主君信長に従って上洛した翌年、つまり永禄二年(1569)和泉の堺の町に赴いて、町の茶匠、今井宗久、津田宗及、千宗易などに接近した。その後、信長から茶会を開くことを許可されたのは、九年後の天正六年(1587)のことらしい。

信長は南蛮貿易での硝石(火薬原料)と鉛を中心とする軍事物資とキリスト教の布教で、大友宗麟・大村純忠等のキリシタン大名化

となった。ローマに本部教会を持つイエズス会とその宣教師達が戦国大名達をキリスト教の信者にしていった。”利の為に!!“大航海時代のイエズス会は、この関係を基に周辺を植民地化していった。

イエズス会の目的は中国の明朝をキリスト教にすることであった。その為に秀吉に四年後に明国出兵に承諾をさせた。それが文禄・慶長の役と朝鮮半島に出兵していった。イエズス会に遣欧使節団を派遣することを巡察使バリヤーノによって、天正十年(1583)一月二十八日長崎を出発し二月十五日マカオ着、使節団は十二月にインドのゴアに到着。翌年八月リスボン、十一月マドリード着、天正十二年(1585)三月バチカンでローマ法王グレゴリウス十三世に謁見し盛大な歓迎を受けた。それから五年後天正十八年(1590)七月に長崎に戻ってきた。使節団は八年五ヶ月と二十日の歳月が経っていた。正使と副使は、正使伊東マンシヨ・千々石ミゲル・副使には原マルチノ・中浦ジュリアンの四名と随員を含めた使師団。

その後、使節の人生を述べると、
 ・伊東マンシヨは、慶長十七年(1612)司祭として長崎の学院で病死。

・千々石ミゲルは早く修道院を去ったのみかキシタンの信仰を棄てて迫害者側の味方となり、消息を断った。

・原マルチノは、慶長十九年(1619)マカオに流され、寛永六年(1629)その地で客死した。

・中浦ジュリアンは迫害の嵐が吹き募る間、イエズス会の司祭として各地で決死的な布教活動を続けていたが、ついに幕吏に捕えられ、寛永十年(1632)長崎において逆吊りの拷問の末に絶命し殉教した。

以上が、本年度の研修講座である。「茶の湯と戦国武将」いかがでしたか?、まとをしぼって講義をしました。信長・光秀・秀吉の一面でしたが、資料をまとめて見ていただければ幸いです。
 参加された皆様、ありがとうございました。

副島邦弘



焼物部会(2025年7月&12月)

令和7年度の焼物教室は、後期5つの小学校と3つの地域対象団地で実施終了致しました。

市内小学校11校 511名

地域対象4団体 約200名

ボランティアでお手伝いいただきました皆様、ご協力ありがとうございました。心よりお礼申し上げます。

小学校(後期)

「植木小学校」

〈2025年9月4日(木)〉

「直方西小学校」

〈2025年9月16日(火)〉

「新入小学校」

〈2025年10月3日(金)〉

「感田小学校」

〈2025年10月24日(金)〉

「直方北小学校」

〈2025年10月28日(火)〉

地域対象団体

「鞍手幼稚園」

〈2025年9月1日(月)〉

「日本語教室おむすび」

〈2025年10月28日(火)〉

「親子焼物教室」

〈2025年12月6日(土)〉

焼物教室を終えて

焼物部会 末松 登志子

令和7年度の焼物教室は、12月6日の親子焼物教室で終了致しました。

6月の終わり実施しました小学校(体育館)は、記憶に残したいくらいに老いも若きも汗、汗の体験教室でした。

猛暑の長い夏が続く最近、日程、作陶場所も考慮したいです。

公民館の親子焼物教室は参加者120名近くとスタッフ合わせて150名近くになり、あの広い一階が混雑していましたが、昨年の反省から今年は入念な準備をした皆様のご協力もありスムーズに進みとても良い作品ができていました。
 6日夜、NHKで放映もされました。

さて学校の体験教室。高取焼400年祭の記念事業を契機に小学校でのマイ茶碗作りを続けてきました。

本年はとてうれしいことがありました。
 なんと11校のうち3校で6年生の担任の先生が

「自分も6年生の時作りました」
と・・・え！と声をあげましたが、
17年経過している・・・ありうる。
17才も年を重ねているのを忘れる
一瞬でした。

私が17年前、伝える会で陶芸の
手伝いをする様になった時に体験
の感想を書いたことを思い出しま
した。

マイ茶碗作りをずっと続けてい
くと直方市民の各家庭に高取焼の
茶碗がならんでいくと・・・この
活動を続けていきたいと。

今、子ども達にお兄さん、お姉
さんの茶碗がある人と聞くと手を
あげる人が多くなつて来ています。
動ける限り続けていきましょ
うか。(。)



親子陶芸教室に参加して

草野知一郎

〈2025年12月6日(土)〉
場所：直方市中央公民館

令和7年12月6日(土)、直方市
青少年育成市民会議主催による親
子陶芸教室「高取焼を親子で学ば
う」に、お手伝いの一員として参加
しました。参加と言っても、見て
いるだけで何の役にも立ってはい
ませんでした。

約2時間という限られた時間の
中でしたが、主催者から古高取焼
の誇れる歴史がビデオ上映と共に
解説され、続いて親子それぞれが
陶芸を体験するという企画でした。
中央公民館大会議室は終始和やか
な雰囲気と笑顔に包まれ、受講さ
れた親子には大変有意義な時間にな
ったものと思われれます。

今回も、お世話する側の「古高
取を伝える会」の方々の指導の手
際は完璧で、私自身にとつてもま
たまた大変勉強になりました。ま
た、このような教室を開催して裏
方として支えていく、という直方
市教育委員会の姿勢にも改めて感



謝の念を覚えました。

私が今回の教室を通じて感じた
ことは、かつて郷土に花開いた文
化をその誇りと共に伝える場をよ
り多く設け、次代への伝承継承を
確固たるものにしていくことは、
古高取焼に限らず全ての郷土文化
や芸術に求められていることであ
る、ということでした。またそれは、
私たち市民の大きな使命であるこ
とも確信いたしました。

直方市では昨年、文化芸術推進
条例が成立したばかりです。これ

から「古高取を伝える会」に代表
される文化活動団体の役割は、益
々重要になってくると思われれます。
今回のような教室が各分野で数多
く開催され、それらの活動が市民
により広く浸透し、世代を超えて
理解され継承されていくことを切
に願っています。

親子焼物教室に参加して

親子のつながりを感じて

成清 一枝

〈2025年12月6日(土)〉
場所：直方市中央公民館

10数人の親子に囲まれて、私は
茶碗作りのアドバイスを始めまし
た。それぞれ回転盤をうまく使い、
茶碗が出来上がっていきます。

小さい子らは粘土遊びの延長か、
縄文土器を思わせるような凝った
茶碗が、また透かし彫りのような
茶碗が出来上がりそうです。焼い
てくださる方の苦笑と困惑の顔が

浮かんでいきます。ただ、無心に作る姿にアドバイスも最小限となつてしまいました。

互いにスマホ片手に顔も見ずにいる親子が多くなつたと感じられる今、親子が作品を見せ合い語り合う姿に、この教室の開催意義があるのだとも思いました。

出来上がった器を前に、家庭の中に一家団欒の場が作られたらと願っています。



親子焼物教室に参加して
土に触れ、歴史に触れた親子時間

安田 優太

〈2025年12月6日(土)〉
場所…直方市中央公民館



直方市の伝統工芸である「高取焼」を親子で体験できると聞き、私は今回初めて参加しました。

普段、慌ただしい生活の中でゆっくり子供と向き合う時間は限られています。陶芸という一つの作業に没頭することで、自然と会話が弾み、穏やかな時間を過ごす

ことができました。

粘土の感触を楽しみながら一生懸命に形を整える子供の姿に、新たな成長を感じる場面もありました。作品作り後半はお互い無言に……。

今回のイベントのように、地域の歴史を学びながらこれほど質の高い体験ができることは非常に有り難いです。親子で作り上げた作品が生活に彩りを添えてくれる日を、心待ちにしています。

親子焼物教室に参加して

とっげい教室ふたたび

安田 幸平

〈2025年12月6日(土)〉
場所…直方市中央公民館

ぼくは、2回目のとっげい教室でお皿を作るつもりが、花びんのようにになりました。

1回目も2回目も楽しかったです。前に作ったお茶わんでお茶を飲んだらとてもおいしかったです。

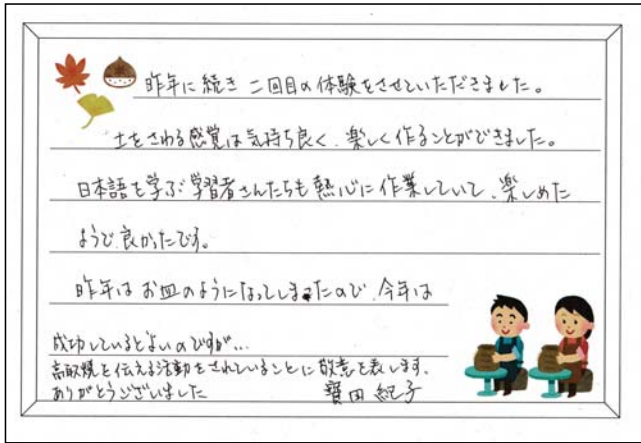
2回目は、思っていた形にならなくて、ちよつといやだったのですが、次は、上手に作りたです。



福岡のやきものの魅力

柴田 ムツ子

有田焼がある佐賀県は、陶磁器産地というイメージが高い。それに比して、福岡県は陶磁器産地のそれはかなり低いように思われる。しかしながら、九州歴史資料館での企画展「福岡の窯道具」を見たという、西日本新聞報道センターの古賀英毅氏によると、福岡県は佐賀県には及ばないが、近世の一大産地であったという。その技は主に秀吉時代以降、朝鮮半島の陶工からもたらされたことは、何度も



なんでも掲示板

●もととりアジサイ園だより
(金剛山もととり保全協議会)

〈2025年7月〉

場所・金剛山もととり広場

明けましておめでとうございます。

令和7年の夏は長くて暑くて記録に残る年でした。温暖化で今後も経験のない季節を生きていくのでしょうか。

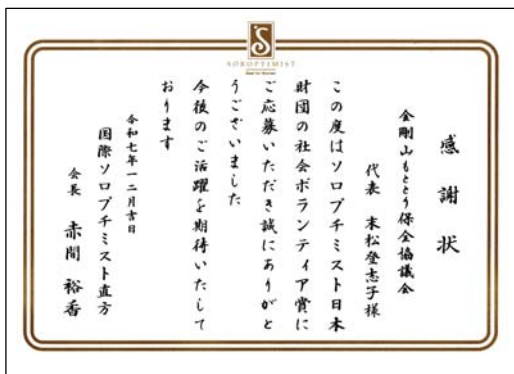
アジサイは暑さに負けず元気に育っていますが、年数のたつている為、生育が悪い木が目立つ様になってきました。

山の中に赤のアジサイは目を引きますが、弱いです。緑の中にある白やブルーは原種に近いため元気に育ちます。

7月は水かけ作業、夕方からでない作業も暑いので暗くなるまで頑張っていました。

年内は草刈り、さし木の植え替え、山の中から落葉は山積、掃除と、8月を除いて毎週土曜日ボランティアで頑張っています。年明けは施肥作業が待っています。

これが元気の源！
古高取を伝える会の二年後、も



ソロブチミスト日本財団様から
社会ボランティア賞をいただきました



ととり協議会発足です。
共に元気で活動を続けていける団体であることを念じながら、令和8年を迎えましょう。
アジサイ園一同

●明元寺もみじ法要
(金剛山もととり保全協議会)

〈2025年11月24日(月)〉

場所・明元寺(直方市永満寺)

晩秋、福智山麓はすっかり色づいて参りました。そういつた中、今年も明元寺もみじ法要を行いました。

今回は落語ということ、いつもの庭園の水上ステージから場所を変えて、本堂を会場としました。

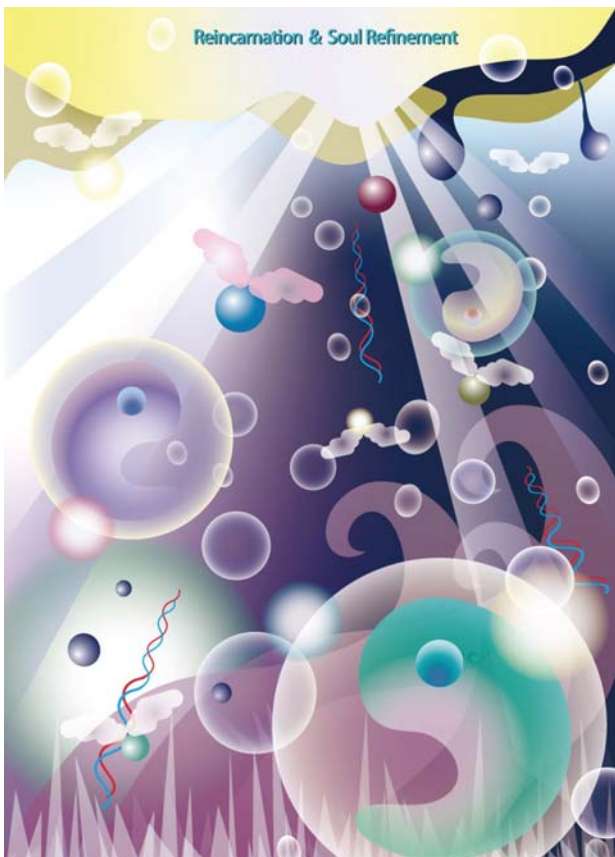
元来、浄土真宗の法話は節談説法と言われ、高座から語る特徴があり、落語や講談、浪曲を織り交ぜての話風でした。

中西省三氏の話芸は話し手と聞き手が絶妙な掛け合いで会場が一つの笑いの渦となり、皆さん楽しんで頂きました。「笑う門には福来たる」また近い内にお呼びしたいと思います。





第59回 太平洋西日本展 デジタル・アート部門 入選
タイトル「COSMOS ~輪廻転生 II~」



第109回 二科展デザイン部入選 タイトル「輪廻転生と魂(たましい)磨き ~生きる目的、生まれる意味~」

● 人とのつながりがあつて
生まれる作品

村上 和正

私は普段音楽活動中心の生活を
していて、絵を描く時間は殆どあ
りません。あまり創作意欲も高く
なくて他の仕事同様、必要に迫ら
れて期限(締め切り)があつて行
動する感じです。自分の中から着
想が次々と湧き上がって描かずに
はいられない、というタイプでは
ありません。実際、昨年まで7年

間作品制作を完全にストップして
いました。

創作活動を再開したきっかけに
なったのは、つながりのあつた作
家さん達から「グループ展」への
参加のお誘いを受けたり、直方市
殿町にある「画廊カンヴァス&め
し屋」のオーナー池田暁美さんが
「個展開催」を企画してくださった
りしたからです。それも「昔の作
品でも構わない、新作でなくても
いい」と言われたので、一歩踏み
出すためのハードルが低かったの
が良かったのかもしれない。こ

れまでに関わってきた人からの呼
びかけに応えよう、という気持ち
が原動力になって「締め切り」ま
での隙間時間で公募展用の作品2
点が生まれ、それぞれ「入選」を
いただきました。2点制作するこ
とになったのは、昨年から関わる
美術団体が2つになってしまった
からです。それは、各公募展で入選
を目指し「挑戦してみては？」と
言ったださる「人」がいるからに
ほかなりません。人・目標・行動
・結果、全てのご縁に感謝。

訃報

令和7年

12月14日

寺井秀子さんが

82歳でご浄土に往生されました。突然の知らせに多くの人がびつくりされたでしょう。



ご家族様の言葉どおり、コーラス、あじさい園、陶芸、学校書道支援とノンストップで動いておられました。何かお願いしても「よかよ」といつも協力的で、たくさん助けていただきました。

あじさい園は10月12日まで、陶芸教室は新入小の10月3日まで参加され、本当にブレイキ無しで走って逝かれました。

本年の途中から理事にもなっていたので、本号で紹介とになるところがこの様なお報せになつてしまい残念でなりません。私たちも寺井さんと同じ世代です。次世代の子どもたちに直方発祥の高取焼をしっかり伝える使命が残っています。

「まだまだ来ないで」と押し返してください。

謹んでご冥福をお祈り致します。合掌

お知らせ

●お茶会の日程

(小学6年生対象および地域対象)

- 「下境小学校」
〈2026年1月22日(木)〉
場所：下境小学校
- 「植木小学校」
〈2026年1月27日(火)〉
場所：植木小学校
- 「感田小学校」
〈2026年1月30日(金)〉
場所：感田小学校
- 「新入小学校」
〈2026年2月6日(金)〉
場所：新入小学校
- 「鞍手幼稚園」
〈2026年2月12日(木)〉
場所：鞍手幼稚園
- 「上頓野小学校」
〈2026年2月19日(木)〉
場所：上頓野小学校
- 「直方東小学校」
〈2026年2月20日(金)〉
場所：直方東小学校
- 「直方北小学校」
〈2026年2月27日(金)〉
場所：直方北小学校
- 「直方西小学校」
〈2026年3月3日(火)〉
場所：直方西小学校
- 「中泉小学校」
〈2026年3月4日(水)〉
場所：中泉小学校
- 「直方南小学校」
〈2026年3月6日(金)〉
場所：直方南小学校

●高取焼基礎研修講座

「現地視察」

〈2026年3月25日(水)〉

バス見学：名護屋城跡博物館 (佐賀県)

※詳細は、別途、ご案内致します。



子供焼物教室を体験した感想をお寄せください

マイ茶碗づくりを経験した最初の子供たちは、もう29歳になります。茶碗づくりの体験をどう思っているでしょうか。茶碗づくりや歴史学習を通して趣味や関心は広がったでしょうか。マイ茶碗を持っている方々の現在の思いをお知らせください。

〈編集後記〉

今号の表紙は、東蓮寺藩主の居館跡です。江戸時代、直方藩となる以前、この地に東蓮寺というお寺があったことから東蓮寺藩と呼ばれていました。

直方の歴史に触れることができる場所のひとつ、お宝です。これからも地域のお宝を少しでも紹介して行きたいと思えます。

皆様、今後ともどうぞ宜しくお願い致します。

「古高取通信」会報・NO42

〈発行〉

古高取を伝える会

〈発行日〉

2026(令和8)年1月20日

〈現在の会員数〉

正会員 1854名(54日)

賛助会員 18名(27日)

団体 1団体(1日)

〈マイ茶碗の数〉

11,382個

〈事務局〉

T822-10026

福岡県直方市津田町7-114

TEL0949(23)1311